

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	敬老祝賀事業	会計	一般会計	事業No.	207	施策順No.	35-018
		事業種別	政策・その他	予算科目	3-1-4-15-2		
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり			課等名	介護高齢課		
施策	35 高齢者福祉の推進			事業期間	開始	S47	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	その年度中に88歳、100歳になる方。 市内の長寿上位3名の方。						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		祝賀訪問対象者数	558	597	577	673	732	
	意図	対象者を訪問し、長寿をお祝いすることにより、高齢者を敬う。						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	訪問者数/対象者数 * 100	97	97	98.9	98	99	98	A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	各地区自治振興センター、まちづくり委員会(健康福祉関係委員)又は民生委員の協力を得て対象者を訪問し、目標を達成できた。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	<p>高齢者の長寿を祝い老人福祉の向上に資するため、年度中に88歳、100歳になる方及び市内の長寿上位3名の方に祝金品を贈る。理事者による敬老訪問を実施する。 新市は自治振興センターがまちづくり委員会、民生委員と協力して訪問配布 旧市5地区は保健福祉部、部課長・職員により訪問お渡しする。22年度は初めて自治振興センター所長に訪問につき協力していただいた。 市内の長寿者番付を公表する。(事前に意向調査を行う)</p>		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	<p>1 88歳の方へ挨拶状、祝金10,000円を贈呈 2 100歳の方に挨拶状、祝金10,000円を贈呈 3 市内長寿上位3名に5,000円相当の祝品を贈呈</p> <p>全国で社会問題となった、高齢者の所在不明・生存不明問題を受けて、飯田市では100歳対象者と100歳以上の市民を訪問し、面会した。結果として全員の所在確認が出来た。</p> <p>訪問対象者数 673人(内、1人は県外に居住)</p>	訪問者数	673人
23年度実施計画	<p>1 88歳の方へ挨拶状、祝金10,000円を贈呈 2 100歳の方に挨拶状、祝金10,000円を贈呈 3 市内長寿上位3名に5,000円相当の祝品を贈呈</p> <p>23年度各年齢到達者数(22.11.5時点) 88歳 700人、100歳 53人 ⇒予算 88歳 679人(97%)、100歳 50人(95%)、長寿上位3名 計732人</p>	対象者数 訪問者数	

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金					
	県支出金					
	起債					
	その他					
一般財源		7,545	6,897	7,545		
計(A)		7,545	6,897	7,545		
正規職員所要時間						
臨時職員等所要時間						
人件費計(B)			0			
トータルコスト A+B			6,897			

4 事業に対する市民や議会の意見

直接理事者等が訪問するので、話ができて励みになったとの声がかかる。  
社協役員などからは、対象者が「次の祝金をいただくまで元気であると頑張っている」などの事例が聞かれる。  
対象者の家族の中には、家を片付ける時間が無いことや、家族が動めに出て不在であることから、届けるのではなく、りんご庁舎などで受け取ることを希望される方もある。

**5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】**

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

**6 前期4年間の取組評価(総括)**

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	安心していきいき暮らせる	施策の成果指標又はムトス指標	いきいき暮らせている高齢者の割合(%)
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	祝金品を贈り、喜んでいただいた。		
	後期に向けた課題			
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	自宅に住んでいない方にも確実に祝金品をお渡しできるよう、関係者(ケアマネ、民生委員、医療機関等)に協力を頂いた。		
	後期に向けた課題			
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	対象者数が毎年増えている。		
	後期に向けた課題			
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	受益者負担無し。		
	後期に向けた課題			
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをされましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り	主体は市、市社協。 祝金品のお渡しについて、民生委員、まちづくり委員会等の協力を頂いている。		
	後期に向けた課題			
全体を通じて	4年間の振り返り	事業を確実に遂行してきた。		
	後期に向けた課題	高齢者の所在不明問題が敬老事業に関わって発生した中で、今後も事業の確実な遂行が求められる。		

**7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認**

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要がありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要がありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

**8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画**

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------